平　成　２８　年　度

旭丘中　学校便り

第 5 号　　練馬区立旭丘中学校：発行　９月

「合理的配慮」について考える

校長　南　俊 彦

人はひとりひとり違った個性をもっています。どんな人々も個性を尊重され過ごしやすい社会を創っていく必要があります。しかし、まだ特定の個性や心身の病状をもっている人にとって生きづらい状況があるのも事実です。誰もが相互に人格と個性を尊重し支え合う共生社会（ノーマライゼーション社会）の実現に向け「障害を理由とする差別の解消の推進に関する法律」（以降「障害者差別解消法」）が4月から施行されました。障害者差別解消法にある「合理的配慮」という考え方は「障害のある人に必要な配慮を、できるのにやらないのは差別だ」ということです。その配慮は、配慮を必要とする本人の意思表明に基づくものです。また、その配慮は必要かつ適切な配慮であることが大切です。「合理的配慮」は、あくまで障害のある方が主体的に自分の力を発揮していくことが目的なので、本人が必要としていないような過剰な配慮は合理的とはいえません。またある人に配慮を行うことで他の人の生活や活動が困難になるほど影響があることや、金銭的にあまりにも大きな負担を伴う場合は配慮を断ることができます。そして、もし断る場合は配慮を求めた本人に必ず理由を説明する必要があります。たとえば、車いすの子が入学しエレベーターの設置が必要だが予算がないという場合を考えてみます。この場合、その子の学習する教室を1階になるようにクラス配置を工夫するといった工夫は可能かもしれません。お金や人手に限界がある中でどんな工夫ができるかを考えることが重要です。「配慮」という日本語は「してあげる」「してもらう」というイメージを持ちますが「合理的配慮」の原語Reasonabule Accommodation（ﾘｰｽﾞｰﾅﾌﾞﾙ ｱｺﾓﾃﾞｰｼｮﾝ）には「調整、便宜」という意味があるので、「お互いにとって過ごしやすい環境を作るにはどうすればよいか」という考え方です。

そもそも「障害」とは、その人と周りの環境との相互作用で生まれます。そして、その障害を解消するための合理的配慮も障害のある方本人と、周りの人や環境との関係で変わっていきます。合理的配慮の定着は粘り強く地道な活動です。でも、その先には障害があるなしに関わらず誰もがすごしやすい社会があるはずです。

現在働いている我々は65歳まで働き、その後10年ぐらいは健康だとしても介護や医療が必要になってきます。そして認知症発病のリスクが増し、言語や認知などコミニュケーション障害が発生しはじめます。障害者差別解消法で義務づけられている「合理的配慮」がある社会は障害があるなしに関わらず、私たちの近い将来に確実につながっているといえます。

★この夏に読んだ本にディスレキシア（読字障害）の方は１つの文字で太さが変わる明朝体のフォントが読みにくい方がいるとのことでした。太さが同じフォントを使用しました。

★臨海学校

1年生の有志39名は、8月2日（火）～5日（金）岩井海岸に臨海学校に行ってきました。出発までは学校のプールで遠泳のための練習を行い参加者全員が3日目の遠泳を行うことができました。4日間とても良い天気に恵まれ、皆真っ黒な顔で帰ってきました。保護者の皆様ご協力ありがとうございました。

★桜台地区祭～相撲大会

8月27日（土）本校で桜台地区祭～相撲大会が行われました。台風10号の影響で朝から時々強く雨が降る天候でした。校庭が使えないため、体育館下での出店と体育館での相撲大会となりました。雨にもかかわらずたくさんの方にご来場いただき盛大に開催されました。また相撲大会には前川区長もご来場され子ども達の取り組みにご声援を送っていただきました。ご準備いただいた相友会、それぞれの町会、旭小、旭中PTAのみなさんありがとうございました。子ども達に夏のよい思い出ができたと思います。

☆職場体験に思う

本校では、2年生を対象に9月14日から3日間職場体験が実施されます。62名の職場体験先は、販売から飲食業、サービス業、福祉関係、駅などの公共機関など様々です。ご協力いただく事業所の方々に感謝と同時に生徒を送り出す責任感を感じます。

学校では「進路指導」という言い方から「キャリア教育」という言い方を使うようになってきました。今回の職場体験もキャリア教育の一環です。「キャリア」というと経歴や学歴を想像してしましますが、ここでいう「キャリア」とは『目標や目的に向かってどのような「あり方」やどのようなプロセスを自らが計画し経験値を積み重ねていくこと』といわれます。進路指導では上級学校への進学を意識したことに視点が置かれていました。キャリヤ教育では①コミニュケーションをとり、協働する姿勢、②情報活用する能力、③自主的計画力の育成、④自己決定力の育成、これらの視点を育成していくことを目指しています。そして望ましい職業観や勤労及び職業に関する知識や技能を身に付けさせるとともに、自己の個性を理解し主体的な進路を選択する能力・態度を育てる指導を充実させることが目的となっています。今の社会は人間関係や地域との関わりが薄くなってきています。そういった今の時代だからこそ体験を通した学びに大きな価値があります。そこではただ触れ合うことや目にすることではなく、直接的な人との関わり合いや、ものとのふれあい、五感を活用した体験から生まれる感動や思い出が生徒達に大きな影響を与えます。職場体験が終わり、一回り大きくなって登校する生徒達の姿が今から楽しみです。